

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

思春期・若年世代のがん患者およびサバイバーのニーズに関する包括的実態調査/ガイドラインの作成

研究分担者 清水千佳子 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 外来医長

研究要旨： 昨年度実施した AYA 世代がん患者およびサバイバーのニーズに関する包括的調査の実態と研究班の会議等における議論を踏まえ、AYA 世代がん患者の支援に関わる医療従事者を対象とした診療の手引きを作成した。

研究協力者 小澤美和 聖路加国際病院小児科
樋口明子 がんの子どもを守る会

ラムを挿入することとした。平成30年3月31日現在の本文の原稿を付録に付す。

A．研究目的

昨年度実施した国内のAYA世代のがん患者（治療中およびサバイバー）のニーズに関する包括的実態調査では、AYA世代のがん患者には多様な情報や相談のニーズがあるものの、その多くが十分に満たされていない状況が明らかになった。またAYA世代のがん患者のニーズは個性が高く、中には、医療機関もしくは医療従事者だけで支援することが困難なニーズも含まれており、医療従事者間の連携だけでなく、医療の枠組みを超えた社会資源との連携が必要であると考えられた。

医療従事者を対象とした調査では、医師、看護師、相談員それぞれの視点で、AYA世代がん患者のニーズに対する認識が異なることも示された。また、看護師、相談員や緩和ケアチームの調査からは、経験数が少ないために、AYA世代がん患者の相談支援に関する困難感があることがうかがわれた。

上記の調査結果と考察を踏まえ、AYA世代のがん患者の支援を充実させるためには、まずは医療従事者レベルで、AYA世代がん患者の実態やニーズについて周知することが重要であると考えた。そこで、今年度は、AYA世代のがん患者の最初の窓口となる医療従事者を主な対象とした支援のガイドライン（支援に関する手引書。以下、「支援の手引き」）を作成した。

B．研究方法

AYA世代（15 - 39歳）のニーズに幅広く対応できるよう、研究代表者の堀部に加え、小児科、成人診療科のそれぞれの立場から、小澤（研究協力者）と清水が編集にあたることとした。

支援の手引きは、総論と各論とに分けて目次を作成した。各論の構成は、背景/実態/問題点、推奨される対応、利用可能なリソース、モデルケースとした。

C．研究結果

「支援の手引き」の目次を(表)に示す。主に本研究班の班員・協力者が執筆を担当した。編者は、現場の実践につながるよう内容について吟味し、執筆者に内容の調整を依頼するとともに、見出しの並べ替え、追加を行った。また、内容が医療に直接関わる医療従事者の視点に偏らないよう、患者・家族・サバイバーや医療機関内外のサポートスタッフのこ

D．考察

当研究班で小原らが実施した施設調査では、がん診療連携拠点病院であってもAYAの診療数は少なく、医療機関レベルにおいても、医療従事者レベルにおいても、経験や知識を蓄積しにくいことが推察された。そのなかで、AYA世代に焦点を当てた「支援の手引き」は、稀少性のために見逃されやすいAYA世代がん患者のニーズや支援に関して、医療従事者の啓発に役立つものと考えられる。

いっぽう、AYA世代のがん患者のニーズは個性が高く、個々の状況やニーズを把握したうえで対応する必要がある。「支援の手引き」では、モデルケースやコラムを示すことで、個別対応の必要性を強調した。またニーズのアセスメントツールの一例として、「支援の手引き」の中に、国立がん研究センター中央病院の「AYA支援チーム」が用いているスクリーニングシートを紹介したが、こうした資料の有効な活用方法や有用性については今後、検証していく必要がある。また、各論的な支援のあり方についても更なる検討が必要である。

また、限られたリソースの中で、医療機関において必ずしもすべてのニーズを充足できるとは限らない。「支援の手引き」では、様々な多職種連携の例を示しているが、「模範解答」を示しているわけではなく、医療機関の状況に応じ、時には医療機関を越えた連携による対応が必要である。「支援の手引き」に示された連携モデルを参照点として、今後、それぞれの現場で、それぞれの実態に即した実効性のあるプログラムが構築されることが期待される。

E．結論

診療科や職域を越えた多職種の協働により、AYA世代がん患者の支援を行う医療従事者を対象とした「支援の手引き」を作成した。このように、がん患者の世代の特性に焦点をおいた包括的な支援の手引書は、国内では類を見ず、今後、医療従事者だけでなく、AYA世代の診療と支援に関わる人材の育成に役立てられることを期待している。

G . 研究発表

1. 論文発表

清水千佳子。AYA世代でがんになること。調剤と情報 2017; 23: 8-10.

清水千佳子。AYA世代のがん患者に関する研究と支援体制 2017; 75: 765-769,

2. 学会発表

平野秀和、清水千佳子、河知あすか、小澤美和、樋口明子、吉田沙蘭、清水研、多田羅竜平、堀部敬三。思春期・若年成人世代がん患者における週末ケアの嗜好 - 思春期・若年世代がん医療の包括的実態調査の結果より。第55回日本癌治療学会学術集会 2017年10月横浜。

清水千佳子。AYA世代のがんの特徴と国内の診療の実態と課題。第55回日本癌治療学会学術集会 2017年10月 横浜。

清水千佳子。乳がん患者の妊孕性に関する支援。第27回 日本乳癌検診学会学術総会 2017年11月 徳島。

H . 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

(表) AYA世代のがん患者の支援の手引き 目次

総論		
1	AYA がんの特徴	堀部敬三
2	AYA がんの診療実態	小原明
3	AYA 世代の特徴	小澤美和
4	AYA がん患者のニーズ	清水千佳子
5	AYA 患者支援におけるチーム医療	松本公一
6-1	医師に必要なスキル	山本一仁
6-2	看護師に求められる視点	丸光恵
コラム	「AYA サポートチーム」	(AYA サポートチーム)
7	教育支援	新平鎮博
		土屋雅子
8	就労支援	樋口明子
コラム	「社会保険労務士とは」	(社会保険労務士)
9	経済・生活支援	樋口明子
10	AYA 患者向けのがん情報	高山智子
各論		
1	心理・精神面	清水研
2	就学	新平鎮博・樋口明子
コラム	「大学復学に向けての環境づくり」	(大学生経験者)
	「病気に対する学校側の理解を」	(高校生経験者)
	「学生相談室の利用を勧めよう」	(学生相談室)
	「院内学級の実際」	(院内学級)
3	就労	土屋雅子
コラム	「職場復帰にあたり医療従事者にお願いしたいこと」	(経験者)
4	リハビリテーションと身体活動	川井章
コラム	「地域・社会につなぐリハビリテーション」	(作業療法士)
5	食行動と栄養	鈴木礼子

6	恋愛・セクシュアリティ 「恋愛・セクシュアリティ がん対策に書かれていないが、切 実な問題」	高橋都 (経験者)
7-1	女性の妊孕性	古井辰郎 生殖小班
7-2	男性の妊孕性	中村晃和
8	経済的問題	樋口明子
9	遺伝性腫瘍に関する問題	田村智英子
コラム	「遺伝学的情報 真に患者・家族を支える医療とは」	小澤美和
10	意思決定, コミュニケーション	吉田沙蘭
コラム	「患者という枠を超えて寄り添ってほしい」	(経験者)
11	配偶者(パートナー)の支援	北野敦子
12	親きょうだいの支援	富岡晶子
13	子どもの支援	小嶋リベカ(CLS)
コラム	「パートナーに必要なサポートとは」	(経験者家族 配偶者)
コラム	「子育て世代の親の苦悩」	(経験者)
14	エンド・オブ・ライフケア	多田羅竜平
コラム	「思春期の息子を見送る」	(経験者家族 親)
15	ピアサポート	桜井なおみ